

平成 2 2 年度
「認定事業場の品質管理向上のための人材養成」
事業報告書

目 次

1. 事業目的	1
2. 事業の内容（計画）	1
3. 事業の実施結果及び成果	2
4. 委員会	8
5. 成果物	8
6. 各講習会、研修会記録写真	10

1. 事業目的

認定事業場（証明事業場を含む。）は、船用機器の製造、改造・修理、整備及び船用品の整備について、国が行う船舶安全法に基づく検査の一部を代行する任務を有している。従って、これら事業場は、経済環境の変動、技術革新の進展等に的確に対応しつつ、常に法定要件を満足する品質管理体制を維持する責務が課せられている。加えて、国際的なISO9001による品質マネジメントシステムの導入が国際競争力を確保する上で不可欠な状況となっており、国際化にも対応した品質管理体制を構築、維持することが求められている。

このため、本事業では、法の要件に加え、ISO9001や最新の品質管理システム(TQM:総合的品質管理)にも精通した人材の養成、確保を図り、技術者の世代交代にも対応できるように、船用機器の製造等工事管理者及び船用品の整備技術者の養成のための講習又は研修を実施する。これにより、認定事業場制度の円滑な運用に資するとともに、船舶の安全航行及び人命の安全に寄与する。

2. 事業の内容(計画)

船用機器の製造等認定事業場、膨脹式救命いかだ整備事業場及びGMDSS整備事業場等の技術者に対する講習会・研修会を次により開催し、技術者の世代交代にも対応できるように人材を養成、確保する。

(1) 船用機器製造工事管理者品質管理講習・研修

神戸において製造認定事業場の技術者40名を対象に、講習3日、試験1日の講習会を実施する。

伊東及び大阪において船用機器製造工事管理者60名を対象に、3日間の研修会を実施する。

(2) 船用機器修繕工事管理者品質管理講習・研修

広島において船用機器修繕工事管理者30名を対象に、講習2日、試験1日の講習会を開催する。

岡山において船用機器修繕工事管理者30名を対象に、2日間の研修会を実施する。

(3) 船用品整備技術講習・研修

① 膨脹式救命いかだ整備技術研修会

小樽、東京、尾道及び下関において膨脹式救命いかだ整備技術者100名を対象に、2日間の学科及び実習の研修会を実施する。

② 降下式乗込装置整備技術研修会

尾道において降下式乗込装置整備技術者30名を対象に、2日間の学科及び実習の研修会を実施する。

③ 無線工学の基礎講習会

東京において40名を対象に、学科に関する講習3日、試験1日の講習会を実施する。

④ GMDSS 救命設備整備技術講習会

東京において無線工学の基礎講習会の試験合格者を対象に、学科及び実技に関する講習4日、試験1日の講習会を実施する。

⑤ GMDSS 救命設備整備技術研修会

東京及び大阪において GMDSS 救命設備整備技術者100名を対象に、1日の学科及び実習の研修会を実施する。

3. 事業の実施結果及び成果

(1) 製造関係

① 船用機器製造工事管理者品質管理講習会

講習会には、29事業場から43名が受講し、講習3日及び試験1日の講習会を実施した。43名全員が試験に合格した。合格者には「製造工事管理者」の資格が本会から付与され、今後、当該事業場の管理者(候補者)として品質管理の実務に従事することになった。

実施日	場 所	実 施 内 容
H22. 10. 26(火) ～ H21. 10. 29(金)	神戸国際会館 (神戸市) (受講者 43名)	講習内容 ①船舶の安全に関する法規と認定事業場の関係 ②認定事業場の組織と品質保証体系 ③認定事業場の品質保証活動 設計管理、製品の信頼性、生産管理、検査管理、 文書管理、教育訓練、内部監査等 試験 筆記試験

② 船用機器製造工事管理者品質管理研修会

対象となる船用機器製造工事管理者に対し受講を要請し、24事業場の51名(伊東21名、大阪30名)が受講した。研修会は3日間で、参加者全員が資格更新について適格であると評価され、製造工事管理者に相応しい品質管理技術の維持、向上を図ることができた。

実施日	場 所	実 施 内 容
H22. 9. 8(水) ～ H22. 9. 10(金)	ルネッサ赤沢 (伊東市) (受講者 21名)	研修内容 ①講義 ・他山の石を砥石として使い、自己の品質管理活動という石を磨く ・船舶機器システムの信頼性と摩耗対策 ②船舶安全法規の動向等 ③グループ討論 テーマ：「品質改善活動の実効を上げるための方策について」、「“予防安全”のためにはどのような活動を実施すべきか」、「ヒューマンエラー防止のための方策について」、「人材育成と直属上司の役割について」(選択) 同上 成果発表 同上 講評及び指導
H22. 10. 6(水) ～ H22. 10. 8(金)	ホテルコスモスクエア国際交流センター (大阪市) (受講者 30名)	

(2) 修繕関係

① 船用機器修繕工事管理者品質管理講習会

講習会には、13事業場から18名が受講し、講習3日及び試験1日の講習会を実施した。18名全員が試験に合格した。合格者には「修繕工事管理者」の資格が本会から付与され、今後、当該事業場の管理者(候補者)として品質管理の実務に従事することになった。

実施日	場 所	実 施 内 容
H22. 9. 29(水) ～ H22. 10. 1(金)	ホテルサンルート梅田 (大阪市) (受講者 18名)	講習内容 ①修繕に関する安全法規 ②修繕事業場における環境管理 ③修繕事業場における品質管理 ④船用機器の修繕の実態について 試験 筆記試験

② 船用機器修繕工事管理者品質管理研修会

対象となる船用機器製造工事管理者に対し受講を要請し、22事業場の27名が受講した。研修会は2日間で、参加者全員が資格更新について適格であると評価され、修繕工事管理者に相応しい品質管理技術の維持、向上を図ることができた。

実施日	場 所	実 施 内 容
H22. 10. 21(木) ～ H22. 10. 22(金)	第1セントラル ビル 1号館 (岡山市) (受講生 27名)	研修内容 ①修繕に関する安全法規 ・排出ガス一次規制の課題と二次規制に向けて ②修繕事業場における品質管理 ・品質管理のあり方 ・品質管理の事例研究 I ・品質管理の事例研究 II ③船舶事故の教訓と信頼性向上の課題 ④技術交流会 テーマ：「修繕品質を高めるために」 ⑤レポート作成・提出

(3) 船用品整備関係

① 膨脹式救命いかだ整備技術研修会

対象となる膨脹式救命いかだ整備技術者に対し受講を要請し、4地区(小樽、東京、尾道、下関)で合計82名が参加した。

教材として新旧7型式(96SOLAS 適合新形2型式、96SOLAS 適合3型式及び83SOLAS 適合2型式)の膨脹式救命いかだを使用して、2日間研修を行った。この中で、実ガス膨脹試験の他、接着修理の実技実習も取り入れ、接着技術に関する指導を行った。また、新形いかだの折りたたみ、格納、積付け等の実習を実施した。実技実習の結果は、整備規程に基づいてメーカー講師のチェックが行われ、良好であった。

新旧型式の教材を使用したことにより、整備技量の維持、向上はもとより、我が国における膨脹式救命いかだ整備体制の維持、強化を図ることができた。

実施日	場 所	実 施 内 容
H22. 9. 15(水) ～ H22. 9. 16(木)	小樽日専連ビル (小樽市) (受講者 11名)	講義 点検、整備、積み付け、整備上の留意点(在 来型いかだ、新型いかだ及びRFD-Toyoタイ プいかだ)、メーカーからの連絡事項等
H22. 11. 25(木) ～ H22. 11. 26(金)	東京海洋大学越中 島キャンパス・越 中島会館 (東京都) (受講者 19名)	実技 教 材：新旧7型式のいかだ(96SOLAS 適合 5形式, 83SOLAS 適合2形式)及び 架台 技術内容：実ガス膨脹、折りたたみ、格納 及び積み付け、接着修理
H22. 8. 24(火) ～ H22. 8. 25(水)	ベイタウン尾道・ センターホール (尾道市) (受講者 24名)	質疑応答、品管からの連絡事項等
H22. 7. 28(水) ～ H22. 7. 29(木)	海峡メッセ下関・ アリーナ棟 (下関市) (受講者 28名)	

② 降下式乗込装置整備技術研修会

対象となる降下式乗込装置整備技術者に対し受講を要請し、22名が参加した。

メーカー2社3型式(74SOLAS、83SOLAS及び96SOLAS適合)の降下式乗込装置のうち、96SOLAS適合品を教材にして、2日間にわたり船上及び整備事業場内における点検、整備に関する指導を行った。96SOLAS適合品の降下式乗込装置の整備は増えつつあり、また、構造も74SOLAS及び83SOLAS適合品より異なった部分もあり、整備に関する詳細な講師の実技指導に対し、質疑・応答も活発に行われた。整備技量の維持、向上はもとより、我が国における降下式乗込装置整備体制の維持、強化を図ることができた。

実施日	場 所	実 施 内 容
H22. 8. 25(水) ～ H22. 8. 26(木)	ベイタウン尾道・ 総合センター (尾道市) (受講者 22 名)	講義 83SOLAS 適合品と 96SOLAS 適合品の相違点 船上で行う点検と注意事項 S. Sで行う点検と注意事項 格納・積付けと注意事項 実技 教 材：96SOLAS 適合品 (スパイラル式 2 型式、ジグザグ式 1 型式) 技術内容：折りたたみ、格納及び積み付け 質疑応答、品管からの連絡事項等

③ 無線工学の基礎講習会

全ての船用品整備事業場を対象に参加者を募り、28事業場から43名が受講した。基礎講習会は4日間で、講習及び試験を実施し、40名が合格して、GMDSS 救命設備整備技術講習会の参加資格を得た。

実施日	場 所	実 施 内 容
H22. 7. 6(火) ～ H20. 7. 9(金)	東京海洋大学 越中島キャンパス (東京都)	講義 電気・磁気・電波工学の基礎 情報通信工学の基礎 電子回路の基礎 電気・電子・高周波計測の基礎 レーダの基礎 基礎試験 (受講者 43 名 合格者 40 名)

④ GMDSS 救命設備整備技術講習会

無線工学の基礎講習試験合格者を対象に、学科及び実習に関する講習4日、試験1日の講習会を計画し、26事業場から40名が参加した。このうち、EPIRB に39名、SART に38名、双方向無線電話に40名がそれぞれ合格し、整備技術者の資格を取得した。今後、当該事業場の整備技術者として就業することとなる。

実施日	場 所	実 施 内 容
H22. 10. 4(月) ～ H22. 10. 8(金)	東京海洋大学越中 島キャンパス (東京都)	<p>講義</p> <p>船舶安全法及び電波法並びに同関係法令 GMDSS の概要 EPIRB の基礎と機器概要 SART の基礎と機器概要 双方向無線電話の基礎と機器概要 点検整備要領 整備施設及び測定器具の管理</p> <p>実技</p> <p>EPIRB、SART、双方向無線電話装置の整備 技量認定試験</p> <p>受講者 40 名 合格者(EPIRB 39 名 SART 38 名 双方向無線電話 40 名)</p>

⑤ GMDSS 救命設備整備技術研修会

対象となる GMDSS 救命設備整備技術者に対し受講を要請し、92 名が参加した。
研修受講者に対しては、整備にあたっての留意点、電波の誤発射防止に係る船舶乗
組員に対する啓発事項並びに関連法規を周知するとともに、実機による指導を実施し
て整備技量の維持、向上を図ることができた。

実施日	場 所	実 施 内 容
H22. 10. 19(火)	東京海洋大学 越中島キャンパス (東京都) (受講者 37 名)	<p>講義</p> <p>船舶安全法及び同関係法令の改正事項等 機器整備上の留意事項 整備記録作成上の注意事項</p> <p>実技</p> <p>整備要領及び整備時の注意事項</p>
H22. 11. 9(水)	ホテルコスモスク エア国際交流セン ター (大阪市) (受講者 49 名)	<p>整備要領及び整備時の注意事項</p>

4. 委員会

事業の実施にあたり、学識経験者、その他関係者からなる委員会を設けた。

(1) 製造工事管理者品質管理講習・研修委員会

平成22年度事業計画に基づき、事業遂行にあたり委員会を3回開催し、指導書の改訂、試験の方法、講習会・研修会の実施方法、講習会・研修会の結果等について審議、検討し、所期の成果を挙げた。

この間、試験小委員会を3回開催し、試験問題の作成、試験の実施方法、試験結果の評価等を審議、検討した。

(2) 舶用機器修繕講習委員会

平成22年度事業計画に基づき、事業遂行にあたり委員会を3回開催し、講習会・研修会の実施方法、教材の作成、講習会・研修会の実施結果等について審議、検討し、所期の成果を挙げた。

この間、試験小委員会を3回開催し、試験問題の作成、試験の実施方法、試験結果の評価等を審議、検討した。

(3) 船用品整備技術講習委員会

平成22年度事業計画に基づき、事業遂行にあたり委員会を2回開催し、講習会等の実施方法、実施結果等について審議、検討し、所期の成果を挙げた。

この間、いかだ・シューター小委員会3回、GMDSS小委員会3回を開催し、それぞれ講習会、研修会の実施方法、実施結果等を審議、検討した。また、整備試験小委員会3回を開催し、試験問題の作成、試験の実施方法、試験結果の評価等を審議、検討した。

5. 成果物

講習会等の実施手段として次の図書を作成した。

(1) 品質管理指導書

第1分冊 品質管理編	90部
第2分冊 法令編	90部

(2) 舶用機器製造工事管理者研修会テキスト

「船舶機器システムの信頼性と摩耗対策」	100部
「他山の石を砥石として使い、自己の品質管理活動という石を磨く」	100部

(3) 舶用機器製造工事管理者 品質管理研修会 グループ討論のまとめ 130部

(4) 舶用機器修繕工事管理者 品質管理講習会テキスト 50部

- | | |
|---------------------------------|-------|
| (5) 船用機器修繕工事管理者 品質管理研修会テキスト | 40部 |
| (6) 無線工学の基礎テキスト | 70部 |
| (7) GMDSS 救命艇設備整備技術指導書(第1部、第2部) | 各120部 |

6. 各講習会、研修会記録写真

目次

- ① 船用機器製造工事管理者品質管理講習会（平成22年10月26日～29日：神戸市）・・・10
- ② 船用機器製造工事管理者品質管理研修会（平成22年9月8日～10日：伊東市）・・・11
（平成22年10月6日～8日：大阪市）・・・12
- ③ 船用機器修繕工事管理者品質管理講習会（平成22年9月29日～10月1日：大阪市）・・・13
- ④ 船用機器修繕工事管理者品質管理研修会（平成22年10月21日～22日：岡山市）・・・14
- ⑤ 無線工学の基礎講習会（平成22年7月6日～9日：東京都）・・・・・・・・・・15
- ⑥ GMDSS 救命設備整備技術講習会（平成22年10月4日～8日：東京都）・・・・・・16
- ⑦ 膨脹式救命いかだ整備技術研修会（平成22年7月28日～29日：下関市）・・・・・・・・17
（平成22年8月24日～25日：尾道市）・・・・・・・・18
（平成22年9月15日～16日：小樽市）・・・・・・・・19
（平成22年11月25日～26日：東京都）・・・・・・・・20
- ⑧ 降下式乗込装置整備技術研修会（平成22年8月25日～26日：尾道市）・・・・・・・・21
- ⑨ GMDSS 救命設備整備技術研修会（平成22年10月19日：東京都）・・・・・・22
（平成22年11月9日：大阪市）・・・・・・23

① 船用機器製造工事管理者品質管理講習会
(平成22年10月26日～29日 神戸市 神戸国際会館)



② 船用機器製造工事管理者品質管理研修会（前期）
（平成22年9月8日～10日 伊東市 ルネッサ赤沢）



船用機器製造工事管理者品質管理研修会（後期）
（平成22年10月6日～8日 大阪市 ホテルコスモスクエア国際交流センター）



③ 船用機器修繕工事管理者品質管理講習会
(平成22年9月29日～10月1日 大阪市 ホテルサンルート梅田)



④ 船用機器修繕工事管理者品質管理研修会
(平成22年10月21日～22日 岡山市 第一セントラルビル1号館)



⑤ 無線工学の基礎講習会

(平成22年7月6日～9日 東京都 東京海洋大学越中島キャンパス)



⑥ GMDSS 救命設備整備技術講習会

(平成22年10月4日～8日 東京都 東京海洋大学越中島キャンパス)



⑦ 膨脹式救命かだ整備技術研修会

(九州地区)

(平成22年7月28日～29日 下関市 海峡メッセ下関)



(中国地区)

(平成22年8月24日～25日 尾道市 ベイタウン尾道産業会館)



(北海道地区)

(平成22年9月15日～16日 小樽市 小樽経済センタービル)



(中部地区)

(平成22年11月25日～26日 東京都 東京海洋大学越中島会館)



⑧ 降下式乗込装置整備技術研修会

(平成22年8月25日～26日 尾道市 ベイタウン尾道産業会館)



⑨ GMDSS 救命設備整備技術研修会
(東京地区)

(平成22年10月19日：東京都 東京海洋大学越中島キャンパス)



(大阪地区)

(平成22年11月9日 大阪市 ホテルコスモスクエア国際交流センター)

